HOME > イベントレポート > 国際協力イベント “グローバルフェスタJAPAN2014”

国際協力イベント “グローバルフェスタJAPAN2014”

データ↓ 内容↓ 担当者インタビュー↓ 詳細レポート↓ フォトレポート↓ 印刷する

ジャンル	[アニバーサリーイベント > 周年イベント] , [各種PRイベント > 啓発イベント] , [国際交流イベント]
開催日	2014年10月04日 ～ 2014年10月05日
開催地	東京都 > 千代田区
会場	日比谷公園 (東京都 > 千代田区) 日比谷公園
主催者	グローバルフェスタJAPAN2014実行委員会
URL	http://www.gfjapan2014.jp/
概要	国際協力活動を行う政府機関、NGO、企業などが一堂に会し、広く国民を対象に楽しく分かりやすい行事を通じて紹介する、国内最大級のイベント「グローバルフェスタJAPAN2014」が開催された。24回目を数える今年は、国際協力60周年記念を迎えより多くの方に国際協力の現状・必要性などの理解と認識をもっていただくことをテーマに「Smile Earth! 地球の明日(みらい)へ“笑顔”のタネまき!」と題し、さまざまなトークショーや展示、食事などが用意された。 GLOBAL FESTA JAPAN 2014 入場門を抜けるとスタッフがお出迎え

花の絨毯「インフィオラータ」に、大人から子供まで参加し作品を完成させた

華やかな開幕式で幕を開けた

データ

共催	外務省、独立行政法人国際協力機構(JICA)、特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)
後援	内閣府・総務省・財務省・文部科学省・厚生労働省・農林水産省・経済産業省・ 国土交通省・環境省・防衛省・東京都・千代田区・(一社)日本新聞協会・NHK・(一社)日本民間放送連盟・(公社)青年海外協力協会・(一社)日本経済団体連合会・日本国際連合協会 東京都本部
協力	(株)読売新聞社、(株)リコー、大和証券グループ、(株)グライダーアソシエイツ、(株)エイチ・アイ・エス、味の素(株)
協賛	UCC上島珈琲(株)、カタール航空、オリンパス(株)、(株)花門フラワーゲート
入場料	無料

	オープニング セレモニーのみ事前申込による抽選制（500名）
ターゲット	一般国民（特に国際協力にまだ興味を持っていない層への働きかけを強化）
告知宣伝	テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、交通機関、WEB等にて、広告・パブリシティを織り交ぜクロスメディア展開
制作印刷物	ポスター、チラシ、パンフレット
取材媒体数	30媒体以上
特典・ノベルティ	非公開
物販コーナー	飲食、雑貨など各ブースにて
スタッフ数	非公開
会場広さ	日比谷公園の噴水広場・にれの木広場・野外小音楽堂・第二花壇等を使用
展示・出展規模	293団体（前回：278団体） 339出展※共催者含む
動員数	4日66,450人　5日11,096人　（5日は台風のため12時にて終了）　合計77,546人
開催期間	2日間
開催歴	24回（年1回開催）
次回開催	未定

内容

※5日は荒天のため正午にて終了。（記載の内容は、予定のもの）

＜ブース＞

各ブースともに活動の紹介を、写真パネルや展示品、トークセミナーにて紹介。
また、ブースの前には飲食の提供や物販販売、抽選会、体験コーナーなど。

＜ステージスケジュール＞

メインステージ

4日（土）

10:00～10:40　オープニングセレモニー
10:45～11:15　AKB48ライブコンサート
12:00～12:30　マサイの戦士がやってくる！
13:00～14:00　旅人・たかのてるこ トークイベント
14:15～15:00　アンダーグラフ　ライブ
15:20～17:00　第9回UNHCR難民映画祭

5日（日）

10:00～11:50　グローバルリズムコンサート
12:00～12:30　マサイの戦士がやってくる！（中止）
13:00～14:00　チャリティーラン閉会式（中止）
14:15～15:15　倉木麻衣トークイベント（中止）
15:30～17:00　桑山紀彦コンサート（中止）

サブステージ

4日（土）

11:00～11:45　Anyangoのアフリカに魅せられてトークライブ
12:00～12:50　キャリアセミナー　国際協力をシゴトにしよう
13:00～13:50　サッカーの夢と感動を復興の力へ！パブリックビューイングプロジェクト
14:00～14:50　北澤豪トークイベント
15:00～15:50　「MUJI」と「一村一品」inキルギス
16:00～16:50　マサイの暮らしを知ろう

5日（日）

10:00～10:50　The Global Girl’s Talk Live　～私達の国際協力～
11:00～11:50　青年海外協力隊　僕達にできることは必ずある！
12:00～13:50　JICA(PARTNER／国際開発ジャーナル社　共催セミナー（中止）
14:00～14:50　JICAグローバル教育コンクール2014　ワークショップ（中止）
15:00～15:50　日本のNGOを笑顔にするJICAのNGO支援メニュー！（中止）
16:00～16:50　民族対立はなぜ起こるのだろう？～コソボ共和国を例として～（株）ウイ（中止）

＜ブース＞

レッドエリア　　JOCA／農業開発／収入向上
オレンジエリア＜にれの木ひろば＞　JOCA／教育／ネットワーク
オレンジエリア＜芝生ひろば＞　教育・ネットワーク
グリーンエリア　大使館／保健医療／緊急援助
スマイルエリア　テーマゾーン

イエローエリア　共催団体・国際機関・地方自治体・その他
ホワイトエリア　環境・ジェンダー
ブルーエリア　人権／平和／国際機関／その他

＜ステージスケジュール＞

メインステージ

4日（土）

10:00～10:40　オープニングセレモニー
外務省 国際協力局長 石兼公博氏、国際協力機構(JICA)理事長 田中明彦氏、国際協力NGOセンター(JANIC)理事長 大橋正明氏、AKB48、来日にしたマサイ族の3名が声を揃えた開会宣言

10:45～11:15　AKB48ライブコンサート
AKB48の代表曲を披露。「恋するフォーチュンクッキー」ではマサイ族の3名も一緒にステージを盛り上げた。

12:00～12:30　マサイの戦士がやってくる！
ケニア南部のからタンザニア北部一帯の先住民であるマサイ族の3名が来日し、現在のマサイが直面する諸問題とともに、生活、習慣など独特の文化を持つ暮らしを語った。

13:00～14:00　旅人・たかのてるこ トークイベント　～海外にみをおいてみるということ～
ベストセラー【ガンジス河でバタフライ』の著者たかのてるこ氏が、各国を旅した経験を元にNGOスタッフと、海外に身を置いてみて気付いたことや面白いエピソードなどを語った。

14:15～15:00　アンダーグラフ　Special Live　～僕らにできる国際協力～
真戸原さんが、日本を飛び出し、現地の人と手と手を取り合いながら未来をつくる多くの青年海外協力隊と出会い、現場を見て、感じたものを、映像を見ながらアンダーグラフのサウンドで楽しんだ。

15:20～17:00　第9回UNHCR難民映画祭
『戦乱前夜に咲いた花　～地球でイチバン新しい国・南スーダン～』南スーダンで行われるミス・コンテストをモチーフにした作品上映。

5日（日）

10:00～11:50　グローバルリズムコンサート
アジア、中南米、アフリカのリズム楽器による大迫力のコンサート

噴水広場でフラッシュモブを行う予定だったUYIC（全国国際協力学生団体連盟）のメンバーがアンサンブルの際にステージに上がりダンスを行い、リズムコンサートとコラボした。

12:00～12:30　マサイの戦士がやってくる！（中止）
4日と同じ

13:00～14:00　チャリティーラン閉会式（中止）
参加費の60%がngoへの寄付となるランニング大会の閉会式。

（チャリティーランは、午前中に開催）

14:15～15:15　倉木麻衣トークイベント　カンボジアの詩　～それが夢の始まりになる～（中止）
3月にカンボジアに視察した倉木麻衣が子供たちと音楽で交流しながら、教育や保健の現場の様子や感想を語る。

15:30～17:00　桑山紀彦コンサート（中止）
途上国支援現場で活躍する医師・桑山紀彦さんが登壇し、歌・音楽・映像で展開。

サブステージ

4日（土）

11:00～11:45　Anyangoのアフリカに魅せられてトークライブ
男性にしか弾くことが許されない楽器ニャティティを女性で初めて伝授されたAnyango。彼女の演奏と歌を交えながらのトーク。

12:00～12:50　キャリアセミナー　国際協力をシゴトにしよう
国際協力の仕事に就きたい、プロとして開発途上国支援に関わりたいなど人へ、求められる人材像の紹介。

13:00～13:50　サッカーの夢と感動を復興の力へ！パブリックビューイングプロジェクト
紛争と混乱のコートジボワールで、希望を与えるサッカーの力を復興にあてようと、JICAとソニーのスタッフが立ち上がった、ドキュメンターリー映像。

14:00～14:50　北澤豪トークイベント
JICAオフィシャルサポーター北澤豪氏を迎え、アフリカを中心に国際協力活動やスポーツとの関わりについてのトーク。

15:00～15:50　「MUJI」と「一村一品」inキルギス
キルギスに行って、「一村一品（OVOP）」プロジェクトによる現地産品の一部を世界各国で販売するようになって3年。これまでの歩みと気付きを現場目線で伝えた。

16:00～16:50　マサイの暮らしを知ろう
ケニア初の日本獣医師となった神戸俊平氏とイベントプロデューサー藤川靖彦氏、来日したマサイ族

の３人が、本物の生き方とは何か語った。

5日（日）

10:00~10:50 The Global Girl's Talk Live ～私達の国際協力～（中止）
様々な国際協力活動を行っているパワフルな女子大生によるトーク。

11:00~11:50 青年海外協力隊 僕達にできることは必ずある！（中止）
青年海外協力隊・東日本大震災復興支援の最前線で活動した若者たちの、海外活動の経験からどのように地域社会へと還元するかの討論。

12:00~13:50 JICA(PARTNER／国際開発ジャーナル社 共催セミナー（中止）
国際協力の仕事に就きたい、世界を舞台に活躍したい人へ、JICA、国際機関、開発コンサルタント、国際NGOで活躍する関係者が、仕事の魅力や求められる人材を紹介。

14:00~14:50 JICAグローバル教育コンクール2014 ワークショップ（中止）
JICAで行っている「グローバル教育コンクール2014」についてのワークショップ。

15:00~15:50 日本のNGOを笑顔にするJICAのNGO支援メニュー！（中止）
JICAが実施してきたNGO支援メニューの紹介と実際に活用してきた団体の発表。

16:00~16:50 民族対立はなぜ起こるのだろう？～コソボ共和国を例として～（株）ウイ（中止）
1990年代に起こったバルカン地域での民族紛争解決のプロセスと現在の状況を踏まえて、持続的平和構築について考える。

PAGE TOP ↑

担当者インタビュー

グローバルフェスタJAPAN2014実行委員会 事務局
イベントプロデューサー 藤川靖彦氏

――グローバルフェスタ開催の目的を教えてください。

24回目を数え、国際協力に興味ある人などには認知されているイベントになりましたが、一番の目的は「もっと国際協力に目を向けてもらう！」ですので、今回は国際協力を知らない方や興味が無い方へ向けて、興味や理解をしていただき、啓蒙的なことが出来ればと考えています。

今までのグローバルフェスタは、どちらかというと真面目で携わった方に向けたイベントになっていたように感じましたので、今回はもっと一般の方に目を向けていただき、足を運んでいただき「国際協力に問いかけたい」と、“話題性や興味をもっていただけるようなイベントコンテンツを取り入れ、メディアに取り上げてもらい、見た方に足を運んでもらう”という戦略を考えました。

――話題性というと？

まずは、普段は接する事の無いマサイ族を考えました。マサイ族は実際に井戸の問題や学校の問題などいろいろな問題を抱えています。そこで彼らの生活を分かってもらい彼らの問題点を理解することは、国際協力と関連性があると思い招聘しました。

話題性という点で、国民的アイドルAKB48を呼ぶことによって、メディアが取り上げ、広く目や耳に入るという重要な部分になったと思っています。

AKB48やマサイ族のそれぞれが、イベントを行ってもメディアの取り上げ方は違っていたと考えます。単独ではあまり取材対象にはなりませんが、この２つをコラボしイベントミックスしたことにより、取材対象になり告知が広がりました。実は、例年２日分の来場者人数を１日だけで達成し、話題性作りの結果だと考えています。

－－マサイの皆さんの人選はどのようにされたのですか？

サバンナの国立公園の近所のマサイ村は観光客に慣れていて、お金をもらって観光的に紹介する人も多いんですが、それでは本来のマサイの現状が伝えられないと考え、本当に日本人が行った事がないような村で、次期長老になれるのでは？という男性に、残り2名の人選をお願いし来日していただきました。

－－来日にあたり苦労したところはありましたか？

実は、彼らを呼んだのは2回目でしたのでスムーズでした。前回は違うイベントでしたが、本当に来てくれるのか？心配でした（笑）。しかし、まったく問題なく来て下さったので、今回は本当に安心していました。彼らほど真面目で本当に安心できる人達はいないです。例えば彼らは食事だけしてアルコールもほとんど飲みません。また、マサイの村には時計は無く、暗くなれば寝て、陽が昇れば起きる生活ですから、日本でも夜9時には「帰って寝たい」と言いますし、朝は集合時間の30分前に準備万端で待っています。ほかにも、お礼をもらっても村に持って帰り、村人のために使います。言われたことも喜んで、絶対にイヤな顔をせず、一生懸命にやってくれますが、これは実際に彼らの村を訪れても同じです。マサイ族は“怖い”イメージがありますが、本当の姿は違って、真面目で真摯な、一番「安心感」がある方たちです。

－－花の絨毯「インフィオラータ」にも多くの人が参加されましたね

反応はすごく良かったです。ひとつの作品を作る「インフィオラータ」は、ある意味「協力」です。今回のグローバルフェスタで行った意味は、出来上がった作品を“展示や写真で楽しむ”ということよりも、子供から大人まで参加し、花びら一枚が、最後にひとつの大きな作品になる。ひとりでは何も出来ないが、目標を持ってみんなでやれば「こんなに大きなことが出来る」これが国際協力と繋がり、「みんなでやれば世界の人たちが平和になれる。大きなことができる」ということを体験をしてもらおうと思い、実際多くの方が参加され一日目の午後早い時間に完成しました。
実は、花びらも“フェアトレード（間引きした花）”を再利用して「無駄なものは無い！」というメッセージも込めています。

－－今回の開催で、良かった点を教えてください。

良かった点は、AKB48やマサイ族という、話題性のある人たちが参加してくださったことで、一般の方にしっかりと告知ができたことです。実は昨年まではメディアの取材はありませんでしたが、今回はテレビだけでも10番組にしっかりと紹介され、30媒体以上のメディアの方がしっかりと取材されたので、「国際協力」という部分をしっかりと伝えられたと思っています。これは今年一番の成功例だと考えています。

もうひとつは、“体験する”コンテンツを多く作りました。“見る・買う・食べる”だけではなく、参加型のコーナーを多くしたのが評判が良かったです。いままでは大きなテントでのワークショップや活動報告を行っていましたが、今回は各ゾーンに“活動報告コーナー”のスペースを用意しました。今までのように1つのワークショップを30分としても2日間だと数が限られます。出展している290団体、みなさん自分の活動を報告する場を持ちたいと思っていましたし、お客様も環境に興味がある人もいれば、人権問題に興味がある人など、さまざまな方が来場されます。今回、全ゾーンに活動報告できる場を用意し、多くの出展者が自分たちの活動をしっかりとアピールでき、来場者の皆さんに知ってもらい共感してもらえるようにしました。これは出展者からもたいへん評判がよかったです。また、セミナー的なことを行ったサブステージは、どの回も立ち見となったのは大きな誤算でした(笑)。

以上2点から、話題性や来場者数だけではなく、来た方にいかに“国際協力をアピールするか”が重要な事だと考えていましたので、今回は“広く呼び、しっかりと伝える”とメリハリを付けたのが、大きなポイントだと思います。

ーー逆に反省すべき点はありましたか？

反省としては、来場者数と出展者数を考えると、キャパ的にオーバーしているように感じました。会場の見直しも今後の課題のひとつではないでしょうか。それと、現在は出展者が自身のブースをアピールしていますが、出展者も一緒にフェスティバルを盛り上げるような一体感のあるフェスティバルに育てる方向性を持てば、さらに発展するのでは？と考えています。

あと、どうしようもありませんが野外で行っていますので、天候に左右されてしまうのも、問題点になるかと思います。我々も出展者も準備万端でも、今回は最終日が半日で終わってしまうという残念な結果となりました。今後、野外だけではなく、予算的なこともありますが室内での開催も一案あるのではないかと思っています。

ーー今後はどのような展開を考えていますか？

もっと、認知させないといけないと思います。国際協力を知らない・携わっていない人を取り込み易くすることが、一番のポイントになると思います。そして、来た人たちをしっかりと捕まえて、しっかりとメッセージを伝えることが重要です。僕ら主催者は、いかに人を呼び込めるかが重要で、出展者は、いかにメッセージを伝えられるかが重要になります。その2つを、一体感を持って展開したいですね。

ブース出展者

ーーブースに朝から人が多くいらしてますね

国際協力に興味を持ってくださる方が多くて本当に嬉しいです。ODAについてのパネルが奥に展示してありますが、最後におみくじを引いていただいて大吉が出たら職員から寄付された民芸品の中から1つ選んでいただくイベントをしています。真ん中にある大きなハート型のオブジェは私たちの手作りなんですが、ブーステーマに“国際協力には愛がある”を掲げているので、ハート型のおみくじにメッセージを記入していただき、オブジェに貼ってもらっています。これは「みんなで小さなハートから大きなハートを作ろう」というコンセプトで行っています。

－－ブースに入られる年齢層的にはいかがですか？

老若男女いらしています。若い方は外務省に興味があるかたが多いですし、ほかのブースの方もいろいろな体験をしたいとこられています。実は私も大学生の時にNGO団体のボランティアとしてグロフェス に参加し、いろいろなブースを回って楽しんでいました。外務省に興味がある方よりも、国際協力に興味がある方がブースにいらしているように感じます。

ボランティア学生

－－どうしてボランティアを希望されましたか？

大学のサークル活動を通してボランティアとして参加しました。このイベントに参加してほかのブースなどを見ることで、視野を広げると共にNGOや他校の学生と交流ができ情報交換をすることで、活動の場や人脈も広がりました。国際協力活動については、もちろん友人の中にも冷めた目で見る人もいますね。実際に途上国の人に何かをすることが、“本当に正しいのか？”、実際に現地に行かないとダメなのか？日本にいて“協力できる事を模索することがいいことなのか？”まだまだ自身の中で悩んでいます。

来場者インタビュー※親子連れ

－－どうしてこのイベントを見にこられましたか？

協力隊のOBで九州からきました。大規模なイベントですし、顔なじみの方もたくさんいらっしゃるので、楽しみに来ました。幅広い年齢の方が参加されるイベントで、特に学生はアグレッシブですし、いろいろな活動を知る事により刺激になっています。

来場者インタビュー※2人組女性

－－どうしてこのイベントを見にこられましたか？

友人が参加していると聞き、見に来ました。すごい大きなイベントなので驚いています。NGO団体がこんなに多いのにも驚きましたし、さまざまな活動があることにも驚いています。

PAGE TOP ↑

詳細レポート

楽しく分かりやすい行事を通じて国際協力を紹介する、今年24回目を数える日本最大級のイベント「グローバルフェスタJAPAN2014」が開催され、老若男女を問わず多くの人が参加し盛り上がりを見せた。今年は日本がODAを開始して60周年となることから、国際協力60周年記念イベントとして行わ

れ、政府機関やNGO企業等293団体が参加し、著名人をゲストに招いたステージイベント、出展社の活動報告コーナー、ファッションや料理などが体験できる。また今年の開催テーマは「Smile Earth!地球の明日（みらい）へ“笑顔”のタネまき！」とし、若い世代からシニア層まで幅広い方々に国際協力を身近なものに感じてもらい、国際協力の現状や必要性、政府とNGOの協力などについての理解と認識を深めてもらいながら、参加を促進することを目的に開催された。

メインステージで行われた60周年記念イベントのオープニングセレモニーは、外務省 国際協力局長 石兼公博氏、国際協力機構（JICA）理事長 田中明彦氏、国際協力NGOセンター（JANIC）理事長 大橋正明氏のほかに、本イベントに参加するために来日したマサイ族の３名、人気アイドルグループAKB48も登壇し華やいだ開幕となった。ステージはメインステージ・サブステージと用意されライブやトーク、セミナーが行われ、特にサブステージは座席数が少なかったこともあるが、各プログラムとも立ち見が出るほどの賑わいを見せた。またブースは、芝生上も利用し日比谷公園内を7つのエリアに分け、写真パネルや展示を利用した活動紹介がメインとなった。一部のブースではセミナーの開催、飲食の販売や物販、抽選会、体験コーナーなどを行った。また、若い学生が活発に呼び込みを行い、足を止めた人にそのブースの活動を熱心に語る姿も多く見かけられた。

来場者は、老若男女を問わず、どこに行っても多くの人で賑わいを見せたが、飲食や物販が目当てというよりも、国際協力に興味があって訪れている人のほうが多く来場していたことに驚かされた。ほかに家族連れが多かったことも印象に残る。

あいにく、最終日の５日は荒天のために12時で終了となったが、単純に国際協力の活動団体の紹介や活動報告の場だけではなく、インタビューをした学生のように、人とのつながりや、自分探しの場の手助けになっていることにも本イベントの意義を感じる。

（2014年10月4日（土） 平山正子）

PAGE TOP ↑

フォトレポート

華やかな開幕式で幕を開けた

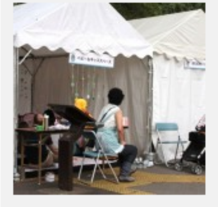
花の絨毯「インフィオラータ」に、大人から子供まで参加し作品を完成させた

サブステージは、どの回も立ち見が出るほどの人気

GLOBAL FESTA JAPAN 2014

入場門を抜けるとスタッフがお出迎え

公園での開催のため、虫除けスプレーが案内所に用意されていた



お子さんを連れて参加される人も多く、施設も用意されるいるのは嬉しい

どのブースも多くの人で賑わっている

食事ブースは世界各国の料理が食べられるとあって、常に満員だった

前では雑貨の販売を、後ろでは活動報告を写真と共に紹介するブースが多かった

しっかりと自分たちの活動をアピールすることも忘れない

各ゾーンに、活動報告のためのブースが用意され、多くの人が足を止めた

世界の民族衣装が体験できるとあって、賑わいを見せた

マサイの人たちは、どこへ行っ

ても人気

PAGE TOP ↑

株式会社 インタークロス・コミュニケーションズ
イベントに関するお問合せはこちらまで

TEL：03−5820−7161（代表）
FAX：03−5820−7166
ファックスお申込み用紙はこちら(PDFファイル)

メールでのお問合せ ▶